

市営国分霊園および今泉第2霊園 Eブロック 第2期の使用者募集

国分霊園では墓地の返還などにより空き区画ができました。また、今泉第2霊園ではEブロックの第2期工事が間もなく完了しますので、それぞれ使用者を募集します。



☎ 環境衛生課 (☎826-1111 内線2407)

霊園名	国分霊園	今泉第2霊園
募集区画数	11区画(約4.0㎡~)	252区画(3.3㎡)
募集方法	●抽選 10月10日(木) 四中地区公民館で実施 (申込者本人が抽選すること)	●先着順 (1世帯につき隣接する2区画まで)
永代使用料	11万6000円/㎡	
墓地管理料(年)	960円/区画	2520円/区画
申込資格	市内に住民登録があり、現在市営霊園を使用していない世帯の方	
申込方法	環境衛生課にある申請書に必要事項を記入し、署名・押印のうえ、住民票謄本(世帯全員のもの)を添付して直接	
申込期間	9月2日(月)から9月30日(月)まで(土・日曜日、祝日は除く)	9月1日(日) 午前9時から午後4時まで (2日以降は午前8時30分から午後5時まで。土・日曜日、祝日は除く)
墓地区画の現地案内	9月6日(金) 午後1時から午後3時30分まで	-

※墓地管理料で霊園内通路などの草刈清掃、供花の回収などを行っています。



食生活改善推進員の 健康料理



No.99 鶏肉のさっぱりネバネバ煮

夏真っ盛り。そんな季節にぴったり！ネバネバつると食感のさわやかな1品をご紹介します。

鶏肉は塩麴しおこうじにつけて焼くことで、旨味をとじこめ、ふっくらやわらかく仕上がります。また、玉ねぎをすりおろして加えることで、甘味が引き出されます。そして、メニュー名にもあるようにオクラとなめこのネバネバで、つるりとさっぱりいただけます。この暑い季節には、冷やしても美味しくいただけます。

欠食せずしっかり食べて、毎日元気にこの暑い夏を乗り越えましょう。

材料・分量(3人分)

鶏むね肉	200g	A	だし汁	大さじ6
塩麴	15g		しょうゆ	小さじ2
片栗粉	少々		砂糖	小さじ2
サラダ油	小さじ1		酒	小さじ1
玉ねぎ	200g			
オクラ	8~10本			
なめこ	100g			



作り方

- ①鶏むね肉は皮をとり、食べやすい大きさにそぎ切りにする。
- ②①に塩麴をまぶしてしばらく置き、片栗粉を薄くつける。
- ③フライパンに油を熱し、②を焼く。
- ④玉ねぎはおろしておく。オクラは茹でて小口切り、なめこはさっと湯通しする。
- ⑤鍋にAを入れ、沸騰したら③、玉ねぎ、なめこを入れて、軽く煮る。
- ⑥最後にオクラを加え、混ぜる。

1人分の栄養素

エネルギー	161kcal
たんぱく質	18.5g
脂質	2.8g
カルシウム	41mg
食物繊維	3.4g
塩分	1.2g



北村みゆきさん 小倉加代子さん

琥珀のアクセサリー



琥珀の玉 表(右)、裏(左)
(赤弥堂遺跡出土、裏面に切断した痕がみられます)

ウイスキーのような黄色味を帯びた茶色を、琥珀色と呼ぶことがあります。色の名前にも使われる琥珀とは、どのようなものなのでしょうか。

琥珀とは、今から数千万年前から3億年前に、杉、松、檜などの樹脂が地中に埋もれて化石になったものです。軟質で軽く、色は黄色や赤褐色が多くみられます。古くから装飾品など様々なものに利用されてきました。

原始古代には、玉や勾玉などのアクセサリーとして用いられました。北海道からは、約2万年前の旧石器時代に作られた玉が発見されています。7世紀になると、遣唐使が琥珀を持っていったことが中国の書物に記されています。江戸時代には、工芸品のほかにお香や医薬品などにも使われました。明治時代になると、塗料などの工業用製品にも利用されましたが、現在は、主に装飾品や工芸品などに使われています。

産地は全国で約20か所確認されていますが、特に岩手県久慈市、千葉県銚子市が有名です。縄文時代にはこの地



琥珀の勾玉
(原田北遺跡出土)

域のほか、福島県いわき市の琥珀も使われました。

縄文時代の琥珀のアクセサリーは、全国的に見て発見例が少なく、約100遺跡で確認されています。分布をみると、長野県諏訪地方や山梨県北西部に集中し、産地から離れた地域に多いという特徴がみられます。簡単に入手できるものではなく、希少性から、極めて価値のあるものだったのでしょう。集落の中心的な人が、権威のシンボルとして使われたと思われる。

琥珀のアクセサリーは、土浦市内の遺跡からも2点発見されています。ひとは、下坂田地区の赤弥堂遺跡から

発見された縄文時代の玉です。大きさは4.1cm×2.3cm、厚さ2.6cmで、紐を通す直径4mmの孔があけられています。琥珀の原石を糸か工具で切断した痕がみられます。今から約4千年前の、縄文時代中頃の住居跡から発見されました。赤弥堂遺跡は、この地域の中心的な集落であったと思われます。

もう1点は、紫ヶ丘地区の原田北遺跡から発見された勾玉です。長さ2.8cmで、直径2.5mmの孔があけられています。弥生時代の終わりから古墳時代の製品と思われる。

また、おおつ野地区の八幡脇遺跡からは、古墳時代の勾玉工房跡が発見されており、そこから琥珀の細かい破片が見つかっています。ここで琥珀の勾玉を制作していたことが考えられます。

今回紹介した琥珀のアクセサリーは、9月1日まで上高津貝塚ふるさと歴史の広場にて展示します。ぜひご覧ください。

関上高津貝塚ふるさと歴史の広場

(☎826・7111)